

胆石症の内視鏡下手術で

福岡市で初めて導入 症例数は年間500例に

佐田正之 医療法人佐田厚生会理事長に聞く

医療法人佐田厚生会・佐田病院（福岡市中央区渡辺通2丁目）の佐田正之理事長・院長は、1991（平成3）7月の理事長就任から20年を迎えた。ドイツ留学から帰国後、父・増美氏の跡を継いだ佐田理事長は、福岡市で初めて胆石症の内視鏡下手術を導入、現在までの症例実績は国内トップクラスの57百例に上る。また、日帰り手術やがん温熱療法など独自の診療法を取り入れ、他の医療機関との差別化を図る。「内視鏡下手術や日帰り手術の適用範囲を広げ、得意分野をさらに強化していきたい」と語る佐田理事長に病院経営の現状と課題、20年を振り返っての感想などを聞いた。

（聞き手・本誌社長、松岡泰輔、6月3日取材）

内視鏡下手術、日帰り手術など独自の診療を展開 「急性期病院の道を選んだから現在がある」

7月で理事長に就任されて20年です。これまでを振り返っての感想などを聞かせてください。

佐田 20年という節目を迎え、これまであったことを振り返ると、感慨深いものがありますね。1991（平成3）年7月の就任でしたが、その3年半前まで西ドイツに留学しており、本来であれば大学病院でもう少し仕事をする予定でしたが、病気がちだった父の要請もあり、佐田病院に戻ることにな

りました。ちょうど40歳の時です。しかし、当院の周辺には公的病院といわれる大規模病院が立地し、救急車の受け入れ件数や手術症例数は年々減少するなど、病院を取り巻く経営環境はとても厳しいものでした。相撲に例えると横綱と十両の戦いです。真正面からぶつかれば勝ち目はありません。相当の危機感と覚悟を持って理事長を引き受けました。

—そのころ、福岡市で初めて胆石症の内視鏡下手術を導入さ

れたそうですね。

佐田 いろいろ模索した結果、大病院がやらないことをやっていかなければダメだということで、再びドイツに渡り、現地で技術を身に付けて帰国しました。当時、胆石症の内視鏡下手術は市内の大学病院でも行われておらず、福岡市で初めての導入でした。そのころ胆石症の手術といえば開腹手術が一般的でしたから、各方面から注目されましたね。多くのメディアにも取り上げられた結果、減少していた手術症例数を回復させることができました。理事長としては上々のスタートだったと思います。しかし、3年も過ぎると同様の手術を始める医療機関が増えてきたため、件数は伸び悩み、次の手を打たなければと新しい試みに挑戦したのです。

—新しい試みとは。

佐田 当院の強み、独自性を意識した取り組みです。当時、医療界では97年に介護保険法が成立し、市内の民間病院では高齢者を対象にした慢性期医療

国内トップ級の実績

7月で理事長就任20年



佐田正之（さだ・まさゆき）理事長・院長

1951（昭和26）年7月25日生まれ59歳。福岡市出身、修猷館高校—久留米大学医学部卒（医学博士）。84年5月～86年12月西ドイツミュンスター大学教育関連病院デトモルト州立病院勤務、87年1月佐田病院勤務、91年7月理事長、97年11月院長、2003年10月福岡大学臨床教授、04年7月から11年3月31日まで福岡市救急病院協会会長を務め、現在同協会顧問。日本医療法人協会代議員、福岡労災保険指定病院協会副会長、全日本病院協会代議員、古賀ゴルフクラブ理事なども務める。趣味はゴルフ



福岡市中央区渡辺通2丁目の佐田病院

に次々とシフトしていきました。時代の流れを意識すれば当院も慢性期医療に転換すべきところですが、祖父の代から続く外科医としては、急性期医療で勝負していきたいという思いを断ち切るができない。そこで内

視鏡下手術に代表される最先端の外科手術を強みに、急性期病院として生き残っていく道を選んだのです。まず97年に老朽化していた病院を全面的に建て替え、翌98年には米国で普及していた日



昨年11月に福岡市内のホテルで開かれた創立70周年記念式典。博多手一本で盛会を祝い、将来の発展を願う（前列左）

帰り手術を導入しました。周囲では「佐田病院は無謀なことをする」と陰口をたたかれましたが、あのときの決断は決して間違っていないかと思えます。言い換えれば、急性期病院として生き残る道を選んだからこそ、現在があると言っても過言ではありません。

前に進んでいくしかないと思います。内視鏡下手術や日帰り手術の適用範囲をさらに広げ、自らの得意分野を一層強化していきたいと思えます。また、内科系分野でも専門性を高めるなど、引き続き絶え間ない努力を続けていきたいと強く思います。

―そのほか、福岡市救急病院協会会長などの役職も務めていますね。佐田 救急病院協会の会長は平成16（2004）年4月から7年間務めました。今年3月末で次の世代にバトンタッチし、現在は顧問を務めています。任期中は、社会問題となっていた救急車のたらい回しのない救急医療体制づくりに取り組み、09年9月には総務大臣表彰を受けました。

胆石症の内視鏡下手術は57百例に 単孔式腹腔鏡下手術で患者負担軽減

―現在、内視鏡下手術で国内トップの症例実績ということですが、これまでの症例数は、91年に福岡で初めて導入した胆

石症に対する腹腔鏡下胆のう摘出手術は、一昨年に5千例を突破、間もなく57百症例に達しようとしています。これは国内トップクラスの症例実績です。

当院の看板手術と申し上げて良

誇っています。

いでしよう。この手術では09年5月から患者さんの体に負担のかからない単孔式腹腔鏡下手術を導入しています。難度の高い手術ですが、患者さんにとつ

てメリットの大きい手術です。将来的には標準治療として普及すると確信しています。そのほか、成人のそけいヘルニア手術は県内で1位、椎間板ヘルニアなど脊椎（せきつい）系の手術は県内3位の症例数を

果もあるのでしょうか。今年5百例ぐらいになりそうです。現

例に上ります。ちなみに一般的な公立病院で50〜60症例ぐらいです。3月にTBSの「これが世界のスーパードクター」という番組に取り上げられた効果もあるのでしょうか。今年5百例ぐらいになりそうです。現

在、全国各地から問い合わせや手術の申し込みが相次いでいる状況です。

―多くの患者さんが来られるのは医者冥利（みょうり）に尽きますが、私たちはモノを売る仕事ではありません。人命に関わる仕事です。手術に適應できるかどうか、十分に検査、診断を行ったうえで対応しています。

―理事長自ら手術を。佐田 はい。私自身、経営数値を見るよりも、手術をしているほうが好きですね（笑い）。―プレイングマネージャーですね。佐田 そうです。プレイングマネージャーです。もちろん手術室では担当の医師を監督、指導しますが、私自身も手術を行います。術後、患者さんから「先生、ありがとうございます」と言われると、やりがいを感じますね。あと5年くらいは現場で頑張っていきたいと思えます。

―全国から患者さんが来院されるそうですが、どちらからが多いですか。

佐田 北海道や東京など全国各地から来られます。内視鏡による胆石症やそけいヘルニア、手掌（しゅしょう）多汗症は、がんと違って良性疾患です。手術すれば完治し、その後の通院も必要ありません。だから北海道や東京の患者さんが交通アクセスに恵まれた福岡まで来られるのです。それからイギリスやカナダ、中国、モンゴル、マレーシアなど海外からも治療に来られます。

―海外まで佐田病院の評判が伝わっていると。佐田 皆さん、日本人と何らか関わりのある方が口コミで当院の評判を聞き、来院されています。中国の患者さんは日本の知人から紹介を受けて来院され、イギリスやカナダの患者さんは日本人を配偶者に持つ方が来られました。アメリカで手術すれば胆石手術で5百万円ぐらい、日本の10倍の費用がかかりますが、当院で手術すればファーストクラスで来日して、九州観光しても余裕でお釣りがきます

(笑い)。
中国やモンゴルの患者さんは富裕層といわれる方々です。「本国に患者がいっぱいいる。今度連れてきますよ」と声をかけられますが、実際にはまだ少ない

手術全体の40%を占める日帰り手術

4月末現在で4890症例

—内視鏡下手術で胆石症のほ

か、ヘルニアや手掌多汗症など、

いろんな手術を行い、日帰り手術にも取り組んでいます。それぞれの症例数はどれくらいですか。

佐田 内視鏡下手術全体で今年に入り1万例を突破しました。5月30日現在で1万900症例です。

日帰り手術は4月末現在、4890症例で、そのうち手掌多



手術室で腹腔鏡下胆のう手術を行う佐田理事長(左)

がん治療で福岡がん総合クリニックと連携

—がん治療の温熱療法とは、どのような治療法ですか。

佐田 がん細胞は正常組織に比べ、熱に弱いという特質を持っています。その特質を利用し、体を温めることでがん細胞だけを選択的に死滅させる治療法です。当院では、この治療方法に化学療法や免疫療法を組み

合わせ、患者さんの身体的苦痛や不快な症状を大幅に緩和させる治療を実施しています。—化学療法と免疫療法を組み合わせたがん治療を取り組まれていると。

佐田 免疫療法のように保険の効かない自由診療は、当院で行うことができます。自由診療を行っている福岡がん総合クリニック(福岡市博多区住吉3丁目、森崎隆院長)と連携しています。従って保険が適用される外科手術や化学療法、温熱療法を当院が担当し、免疫療法や抗がん剤治療など自由診療は福岡がん総合クリニックでという

ですね。現在、国の施策で医療ツーリズムを積極的に推進していますが、まだまだクリアすべき課題は多いのではないかと思います。

汗症が280例、せけいヘルニアが1412例で手術全体の86%を占めています。日帰り手術は患者さんにとって体の負担が軽く、早期の社会復帰が可能な手術です。今後、ニーズは高まると思います。そのほか一般の外科手術も年間千件を突破しています。

—手術件数が増えると、病院収入も増収になりますね。

佐田 おっしゃるとおり、前期の医療収入は24億2千万円でしたが、今期は2億円以上の増収を見込んでいます。おかげさまでこの厳しい環境下で民間病院としては安定した収益基盤を築くことができます。また、質の高い医療を提供するには最新機器を導入しなければなりません。現在、世界最高水準の技術を駆使した機器を使用していますので、メンテナンスや修理に数百万円単位の費用が発生しています。必要なコストとはいえ、経営者の立場で申し上げるともう少しどうにかならぬのかなと思います。

役割分担で対応しています。—いずれにしても内視鏡下手術や日帰り手術、がんの温熱療法など独自の診療活動を展開されていますね。

九州の民間病院で初の開放型病院に指定

—民間病院では九州で初めて「開放型病院」の指定を受けています。現在の取り組み状況をお聞かせください。

佐田 開放型病院とは、ベッドを持たない診療所や開業医の先生が、当院など指定を受けた施設を利用して手術や入院が必要な患者さんの治療ができる医療機関のことです。当院では昨年、111人の登録医を中心に、3255件の患者さんの紹介をいただいたのですが、その中でこの開放型病院の制度を利用されたのはわずか203件、全紹介数の6.2%にすぎません。残念ながら利用頻度は決して高くないのが現状です。

—世界最高水準と言われましたが、どのような機器を導入していますか。

佐田 ドイツ製を中心に、内視鏡では鼻から通す胃カメラと消化管の内部から超音波を当て、より詳しく腫瘍などを調べることができ、超音波内視鏡、複雑で検査が難しい小腸を調べるカプセル内視鏡や小腸内視鏡など、より正確に診断できる、さまざまな機材をそろえています。

また、デジタル画像ファイリングシステムを更新し、過去の検査画像を即座に参照することができ、術後の経過や治療効果を高画質の画像で確認できるシステムを取り入れています。そのほか、がん治療で導入している温熱療法の「サーモトロンRF8」といわれる装置をはじめ、エックス線装置などの機器も充実させています。医療機器以外でもIT分野での機能強化を進めており、今後は電子カルテやSPD(在庫管理システム)を導入する予定です。

が、当院は大学病院や公的病院といった大病院に囲まれている。ほかの医療機関と同じことをやっても、生き残るのは難しい。だからこそ急性期と専門性に特化し、内視鏡下手術や日帰り手術を取り入れた独自の診療活動を展開しているのです。

—どうしてそんなに利用が少ないのですか。

佐田 患者さんにとっては、かかりつけの先生が引き続き手術を担当し、入院後も当院に回診に来てくれるなどのメリットはあります。一方で医師の立場からすれば、当院のスタッフと同じ立場で治療や、手術をしなければいけない。当院のことをまったく分からない先生が利用すると、技術的な問題、円滑なコミュニケーションができません。

「コンセプトは「For the patient(患者さんのために)」

—質の高い医療を提供するには、患者さんと良好な関係を築くことが求められます。関係構

ればうまくいかないケースも出てきます。ですから、どうしても勤務経験のある先生や、患者さんを頻繁に紹介される近隣の先生方の利用に限られてしまいます。

それから制度面での問題もあります。開放型病院を利用した場合の保険料収入が350円と低く、実際の負担に対して収入が少ないことも、なかなか普及しない要因になっていると思います。

ただ、国の政策上、福岡市の場、これから独立を目指す若い先生たちは、診療所やクリニックは開業できても、ベッドを持った病院を新たに開院することはできないので、開放型病院を活用した病診連携に頼らざるを得ません。そういう点を踏まえると、今後、さらに普及すると思います。

築に向けた佐田病院の取り組みをお聞かせください。

佐田 佐田病院のコンセプト

役員一覧



1988年 3月 九州大学医学部卒業
 1988年 6月 九州大学医学部付属病院第一外科入局
 1999年 6月 福岡赤十字病院外科勤務
 2002年 3月 佐賀医科大学一般消化器外科助手
 2007年 4月 佐田病院勤務
 2007年10月 佐田病院外科部長
 (専門分野)
 消化器外科、肝胆膵外科、呼吸器外科、乳腺外科、
 内視鏡下手術

**外科部長
医局長
平野 達也**



1991年 3月 佐賀医科大学卒業
 1991年 4月 九州大学医学部付属病院整形外科勤務
 1993年 4月 総合脊損センター整形外科勤務
 1997年 4月 佐田病院整形外科医長
 2008年 4月 佐田病院整形外科部長
 (専門分野)
 脊椎・脊髄外科、外傷一般、関節鏡、ペインコント
 ロール、骨粗鬆症

**整形外科部長
副医局長
藤原 将巳**



1993年 3月 福岡大学医学部卒業
 1993年 5月 福岡大学筑紫病院内科・消化器科入局
 1996年 2月 福岡大学筑紫病院消化器科勤務
 2004年 3月 佐田病院消化器内科勤務
 2007年 4月 佐田病院消化器内科部長
 (専門分野)
 食道・胃・大腸腫瘍の診断と内視鏡治療、炎症性腸
 疾患の診断と治療

**消化器内科部長
頼岡 誠**



1985年 3月 九州大学医学部卒業
 1990年 4月 佐田病院麻酔科勤務
 (専門分野)
 術中管理、ペインクリニック

**麻酔科医
衛藤 陽一**

(医)佐田厚生会 佐田病院

〔本 社〕〒810-0004 福岡市中央区渡辺通2-4-28
 〔設立〕(平成3)年7月 〔創 業〕(昭和15)年11月
 〔資本金〕1億5000万円
 〔銀行〕十八福岡 三菱東京UFJ福岡 鹿児島福岡
 〔役員〕(理事長)佐田正之
 〔事業〕外科 整形外科 内科 消化器外科 消化器内科 循環器内科 呼吸器外科
 放射線科 麻酔科 リハビリテーション科
 〔仕入先〕アトル キンヤ 九州風雲堂 アイ・ティール・アイ他
 〔販売先〕一般患者 人間ドック・健康診断(十八銀行 コカ・コーラウエスト ホテ
 ルニューオータニ ロイヤル 九州電力 他)
 〔取扱構成〕外科系45% 整形外科系30% 内科系25%

業 績	売上高(千円)	経常利益(千円)	配当(%)	従業員
08年6月	2,343,675	856	-	200
09年6月	2,342,091	15,586	-	200
10年6月	2,421,266	89,605	-	210



1977年 3月 久留米大学医学部卒業
 1977年 4月 久留米大学医学部第二外科入局
 1984年 5月 西ドイツ留学 アトモント州立病院勤務
 1991年 7月 佐田病院理事長
 1997年11月 佐田病院院長
 2003年10月 福岡大学 臨床教授
 (専門分野)
 内視鏡下手術(腹腔鏡下・胸腔鏡下)、消化器外
 科、肝胆膵外科、呼吸器外科、日帰り手術

**理事長・院長
佐田 正之**



1961年 3月 九州大学医学部卒業
 1962年 4月 九州大学第二内科入局
 1985年 6月 福岡大学筑紫病院消化器科教授
 2005年 4月 佐田病院名誉院長
 福岡大学 名誉教授
 (専門分野)
 消化器、炎症性腸疾患

**名誉院長
八尾 恒良**



1953年 3月 九州大学医学部卒業
 1958年 7月 米国クリーブランドクリニック・リサ
 ーチフェロー
 1973年 4月 福岡大学医学部第二内科教授
 2005年 9月 佐田病院名誉顧問
 (専門分野)
 循環器内科、日本高血圧学会会長

**名誉顧問
荒川 規矩男**



1977年 3月 九州大学医学部卒業
 1977年 4月 九州大学医学部第一外科入局
 1993年 2月 九州大学医学部第一外科講師
 2000年 4月 福岡赤十字病院外科部長
 2002年 4月 九州大学医学部臨床教授
 2010年 4月 佐田病院副院長
 (専門分野)
 消化器外科、肝胆膵外科、内視鏡下手術、胆道系の
 内視鏡的治療(ERCP、EST等)

**副院長
住吉 金次郎**



1981年 3月 福岡大学医学部卒業
 1981年 6月 福岡大学医学部第二内科入局
 1984年10月 米国クリーブランド・クリニック心臓・
 高血圧研究部門勤務
 2004年 4月 唐津赤十字病院循環器科部長
 2009年 4月 佐田病院副院長
 (専門分野)
 循環器内科

**副院長
仁位 隆信**

は、「For the Patient(＝フォー・ザ・ペイシエント＝患者さんのために)」です。これは要するに「患者さんに丁寧な説明を心がけ、最善の治療を行います」ということです。これが良好なパートナーシップを築く上で最も大事なことでと思います。私を含め、スタッフ全員がそれぞれの持ち場で患者さんのために最善策を講じていく以外に良好な関係を築くことはできないと思います。私自身、朝7時には病院に来て、入院患者さんを診ています。その時間帯には皆さん起きておられるので、私が診察に行くと、とても喜ばれます。「佐田病院に来て良かった」と声をかけていただきます。

―理事長が率先垂範で動かれている。

佐田 私自身、誰よりも早く病院に来て、患者さんを診ますから、他の先生方も遅く来る訳にはいきません。診療開始時間が午前9時なので、以前は診察時間ギリギリに来られる先生が

多かったです。現在では、かなり早い時間に病院に来られ回診されています。

医療は無言の信頼関係というか、その患者さんが満足すれば病院の評判が口コミで広がりま

す。患者さんが満足されると良い評判につながるし、逆に不満であれば悪い評判として広がってしまう。本当に難しいですね。それから他の産業と異なって、診療報酬が国の医療制度で決められていきます。独自の経営方針を立てることができても、自分たちで価格を決めることができ

**常勤職員数は4月末で218人、診療科目は18科目
臓器別の専門治療に特化**

―それでは佐田病院の概要をお聞きします。現在の職員数は。 **佐田** 今年4月末時点で常勤職員は218人です。うち医師が18人、看護師は137人です。看護については、国が定めた最高水準の看護体制を敷いています。そのほか、医師や看護師の作業負担を軽減するメディカルクラークや病棟クラーク、

保、育成するために、かなりの時間と労力が求められると思います。 **佐田** 実力のある医師を引っ張ってくることも大切ですが、それ以上に優秀な看護師を確保

し、育成することは病院経営にとって大きな課題です。よく看護師不足の問題がTV報道で取り上げられますが、当院は福岡市の中心部に立地していることもあり、比較的確保しやすい状況です。しかし、それでも離職率は決して低くありません。教育体制や福利厚生面で充実を図っています。

まず教育面では、院内外での研修や勉強会、資格取得の支援、心理カウンセラーによるメンタルヘルス面など幅広く対応しています。福利厚生面では、職員旅行やファミリードームのシーズンシートを確保しているほか、看護師寮に院内保育園を新設するなど、働きやすい職場環境づくりを進めています。入院患者さんからは「佐田病院の看護師さんは丁寧でやさしいですね」と褒められますし、大学病院から来た先生からも高い評価をいただいています。

―病床数は。 **佐田** 180床あり、すべて一般病床です。救急指定病院、

※弊社別冊「福岡の会社情報」データベースより

救急功労者表彰の総務大臣表彰受賞を祝う会



福岡市救急病院協会会長の任期中の09年9月に総務大臣表彰を受賞。受賞を祝う会で（左から2人目）

表紙の人

た。まだスタートしたばかりです。患者さんを紹介いただけると助かります。この場を借りて宣伝しておきます（笑い）。
—福岡県内では大病院の新增築が相次いでいます。福岡市では福岡赤十字病院の新築工事が着々と進んでいますし、浜の町病院でも新病院が着工しました。この動きをどのように見ていますか。

佐田 日赤も浜の町もかなり老朽化が進んでいましたからね。建物や施設を一新し、大病院として機能強化されることは地域医療にとってはプラスとなりますが、大病院に囲まれている民間病院の立場で申し上げますと、大きな脅威を感じています。今

福岡市生まれ59歳 修猷館高—久留米大医学部卒業 大学卒業後、西ドイツに3年間留学

—佐田理事長のプロフィールをお聞きます。昭和26（1951）年7月25日生まれ59歳。出身はどちらですか。

佐田 福岡市です。中洲の産婦人科で生まれ、病院の隣にあった自宅で育ちました。現在、中央区渡辺通2丁目ですが、当時は新開町とっていました。
—小中学校は。

佐田 福岡学芸大（現・福岡教育大）付属小学校に入学し、そのまま付属中学校に進みました。
—高校は修猷館ですね。



70周年記念式典会場で職員スタッフとの記念写真

開放型病院の指定を受けています。また、日本外科学会をはじめ、7つの医学会の認定施設として専門医の研修などを受け入れているほか、九大病院、福大病院の臨床研修病院になっています。

—現在の診療科目は。
佐田 外科はじめ内科や整形外科、消化器内科、内視鏡外科など18科目です。特に胃腸・大腸・胆のう・肛門外科、腫瘍・瘻瘍（とうよう）緩和外科、腫瘍内科など専門治療に特化している点は大きな特徴です。そのほか人間ドックや各種健康診断に対応しています。

—先ほど内視鏡下手術や日帰り手術の状況を話されましたが、各診療科の状況を聞かせてください。
佐田 外科では昨年4月、福岡赤十字病院の外科部長や九大の臨床教授を務めた住吉金次郎先生を副院長に迎え、平野達也外科部長とともに、食道、胃・大腸がん、肝臓、胆のう、すい臓疾患の腹腔鏡下手術、消化器が

ん外科の診療を強化しています。整形外科では04年に九州大学臨床教授で、脊椎（せきつい）脊髄疾患の分野で「名医」といわれた秋山徹先生を副院長（現在は顧問）として迎えて以降、藤原将巳整形外科部長を中心に脊椎脊髄疾患の治療に力を入れてきました。その結果、「脊椎脊髄疾患の手術なら佐田病院」といわれるほど評価をいただいています。

消化器内科の領域では、近年、脚光を浴びている早期がんに対するESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）に力を入れています。福大名誉教授で、当院の名誉院長である八尾恒良先生の指導で、頼岡誠消化器内科部長を中心に取り組んでいます。それから内科では、仁位隆信副院長を中心に5月に心大血管疾患リハビリテーションを開設しました。従来の運動器疾患や外科手術後のリハビリだけでなく、心不全や心筋梗塞（こうそく）、狭心症などの患者さんのリハビリにも対応できる施設に充実させまし

後、急性期病院として専門領域にさらに磨きをかけ、大病院ができない分野を担っていかねばならないと決意を新たにしています。

ね。入学当時は九大医学部を第一志望にしましたが、親の期待に応えられず久留米大学医学部に進学することになりました。

—学生時代に取り組んだクラブ活動は。
佐田 中学時代は野球部、大学時代はバスケットボール部に入学し、いずれもキャプテンを



自宅庭でゴルフの練習をする小学校入学前の佐田理事長



福岡学芸大付属中時代、野球部の主将を務めた（後列右から3人目）

務めていました。
—大学卒業後、西ドイツのデトモルト州立病院に留学されましたが、いつですか。
佐田 昭和59（84）年です。大学卒業時、そのまま残って大学の外科に進むか、九大の外科に行くか迷っていましたね。結局、久留米大学の第2外科に入



08年の博多祇園山笠集団山見せで台上りを務めた(左)



92年6月、フランス・ボルドーで開かれた第3回世界内視鏡外科学会に出席



病院創業者で祖父の正人さん(右)、父・増美さん(中央)と佐田理事長



第1回日本親子孫三代ゴルフ大会で優勝した佐田理事長(右)。古賀ゴルフクラブで



家族写真。前列左から佐田理事長、道子夫人、後列左から次男・政司さん、長女・真喜子さん、政史さんの妻・真理さん、長男・政史さん

(さん)を積みました。
 「2度もデトモルトですか。佐田 いえ、今度はミュンヘンに近い小さな田舎町でした。その街にあった病院に依頼書を送ったら受け入れてくれましたね。日本人は1人もいない小さい町でしたから、地元の新聞に「内視鏡外科を学ぶ日本人医師」ということで取材を受けました。ただ、私のように内視鏡外科技術を習得したい医師が世界中から訪れていたのは驚きました。それから日本に戻り、すぐに導

入したかったのですが、器械がなかなか手に入りませんでした。残念ながら国内初の導入にはなりませんでしたが、他の病院より数多くの臨床を積み重ねることで評価をいただけるようになりました。
 話を少し戻しますが、結婚はいつですか。
 佐田 28歳のころです。妻は修猷館時代の同級生の妹です。ある日祖父から「正之、道子さんと早く結婚しろ」と、久留米の下宿先に電話がありましたね

：(笑い)。知り合い結婚とも言いましょうか。
 佐田 3人います。息子二人は、九大医学部に進みました。長男は現在、外科医師として修業を積んでいます。次男は来春九大を卒業します。長女は母親と同じピアノの道を歩んでいます。ロンドンのロイヤルアカデミー留学後、福岡に呼び戻しましたが、イギリスやスペインなどの演奏会に参加しています。父親としては早く結婚してほしいのですが…。
 佐田 ゴルフです。ホームコースは、今年理事に就任した古賀ゴルフクラブ(古賀市)で、ハンディは古賀で19です。古賀ゴルフクラブは8月には世界最高水準のミニバーディ芝を備えたBグリーンが完成しますし、平成25年にはクラブハウスの全面建て替えを計画しているの

で、今から楽しみです。
 ありがとうございます。
 (文・構成／編集部・田中聡一郎)

局し、84年に医学博士号を取得、恩師である古賀道弘教授の薦めでドイツに渡り、向こうで臨床を経験しました。このときの臨床経験は私にとってかけがいのない財産ですね。
 ドイツでは、外科医は手術をするのが仕事だったんです。ドイツでの恩師ブラウン教授からは「佐田、外科医になるんだったら症例数を積み重ねなさい。そうしないと腕は上がらない。自己満足ではダメだ。患者さんのためには、いろんな症例を経験しなければいけない」と指導されてきた。とにかく朝から晩まで手術ばかりやっていた。
 結局、ドイツには何年間留学されたのですか。
 佐田 3年間です。久留米大学からすれば、帰国後、大学病院で活躍してほしかったと思います。しかし、父が病気になるまで、結局、佐田病院に帰ることになりました。
 デトモルト州立大学病院は

西ドイツのどのあたりですか。
 佐田 ドイツ北部の主要都市・ハノーファーの近くです。冬は寒く、宿舎から病院まで雪をかき分けながら通っていました。病院では外国人医師として、ドイツ人の医師たちと一緒に働きました。うれしかったのは、ドイツ人が日本からやってきた私を一人の医師として受け入れてくれたことです。「私が手術を担当します」と伝えても、何の違和感なく「よろしくお願います」と応じてくれる。なぜかと言いますと、国民性が近いことや日本人が器用であること、ドイツ留学した先達が優秀であったからでしょう。だから受け入れてくれた。これは米国では考えられないことです。
 そのときに内視鏡手術を習得されたのですか。
 佐田 当時は、まだ世界的に内視鏡外科手術が導入されていませんでしたので、内視鏡外科手術を導入しようと決断したのは日本に帰ってからです。佐田病院に戻り、何かしなければな

らないかと思っていたところ、学会で内視鏡外科手術のことを知りましてね。再びドイツに渡り、その道の専門家のところで研鑽



西ドイツ留学時代、友人たちとの集まりで(後列右)



西ドイツのデトモルト州立大学病院で